

わたしの経験によって知ったジャパン

チャミンダ スランジット

私はチャミンダと申します。日本へ来てからいろいろなことを経験しました。私の目で見えた日本について、三つの印象にのこったことをおはなしします。

最初は、あいさつのことです。来日の前から日本はあいさつの国としてよく知っていました。でも日本へ来て、日本人のあいさつのしかたを見て「どうしてこんなにたくさんあいさつがあるのだろう」とちょっとこわくなりました。しかし、そのうち日本人のあいさつがよくわからなくても、あいさつのしかたを見ていて、おもしろくなってきました。あいさつをするときのひょうじょうとか、こえのへんかとか、おじぎなど体の使い方を見ていて、日本人みたいにあいさつを試みたくくなりました。そして、日本人がきちんとあいさつをして私になにかたのむと、どんなに大変でもしようと思うふしぎさも経験しました。

二つ目は日本人のあたたかさについてです。そのあたたかさのなかに、しんせつさやおもいやりやこころくばりなどがあります。その理由をおはなしします。それは去年10月16日のことです。私は電車の中で大切なさいふをなくしてしまいました。しかもアルバイトの給料をもらったばかりだったんです。さいふを見つけた人が戻してくれるなんてありえないと思っていました。けいさつに行きました。ぐちをこぼしてしまいました。でも次の日思いもよらぬことがおきました。それは「チャミンダさん、さいふが見つかりましたよ」との電話でした。上野行きの電車に落ちていたさいふを日本人の方がひろって駅にとどけてくれたそうです。びっくりしたことに、さいふをあけてみたら、入っていたものがそのままありました。私はこの経験をいつまでも忘れないと思います。

三つ目は、日本人の元気さです。スリランカやほかの国とちがって、日本人は特別ななにかをもっていると思います。日本人のじつねんれいというのは本当に難しいです。日本人はどんなに年をかさねても、若く見えるのはすごいと思います。私の今までの経験からみると、日本人はつねに自分がきれいであるように心がけているのではないのでしょうか。とくに女の人は外見を大切にしている、50歳の方が35歳ぐらいにみえるほどです。またアルバイト先では年配の人が多く、ほとんどが60歳以上です。私の国では60歳以上になったら、いろいろ病気になったり、体をよくうごかせなくなっている人が多いです。でも日本では年配の人が若い人といっしょに働いているのを見てびっくりしました。わたしより元気で、仕事ははやい60歳以上の人がおおぜいいます。はずかしいことに、私がやれないと思う仕事でも、75歳のおじさんがやっています。

私は、これからも日本人のあいさつ、あたたかさ、元気さをみならって、日本でいろいろ経験したいです。ごせいちょうありがとうございました。